

垂水市新城地区の生きがい作り、仲間づくりを目指した特色ある公民館活動

垂水市新城地区地域振興計画策定委員会

はじめに

垂水市は、大隅半島の北西部、鹿児島湾に面するほぼ中央、県都鹿児島市と大隅半島を結ぶ要所に位置している。北に霧島市、西に桜島、東には高隅連山を境として鹿屋市に接し、面積は162km²で37kmに及ぶ海岸線を有している。基幹産業はブリ・カンパチの養殖に加え、温暖な気候を活かした枇杷・柑橘類等の果実やキヌサヤ、インゲン等の栽培も盛んである。高隅山系を源に地底から湧き出る温泉水は、豊富な天然ミネラルをバランスよく含む健康飲料水として親しまれている。

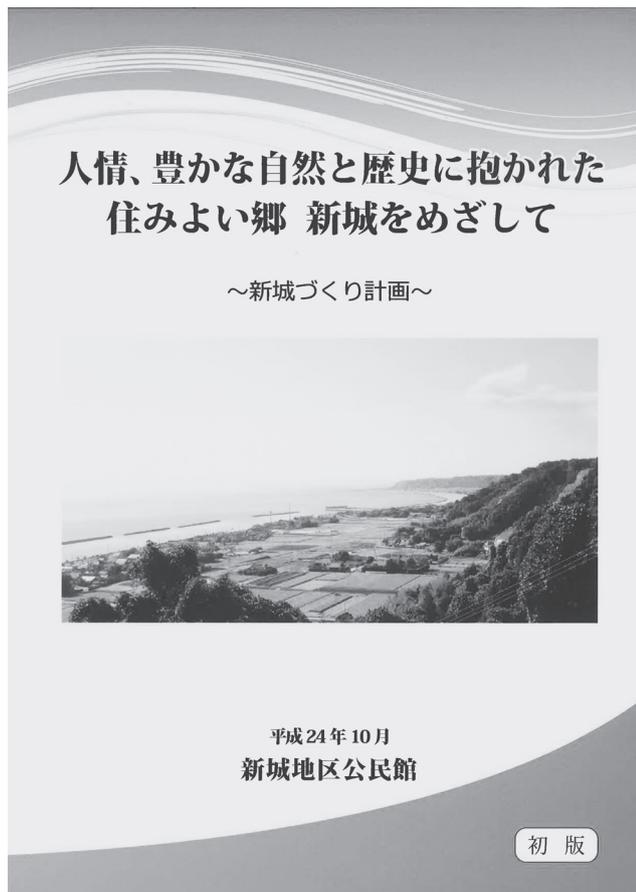
新城地区は、市街地から南へ8km、人口約1,050人、戸数約600戸で国道220号線沿いの田園地帯に集落が点在してい

る。少子高齢化が進み、米、玉ねぎを中心に小規模農家が多い地区である。

歴史的には、江戸時代は薩摩藩島津家の一門家である垂水島津家の分家、新城島津家が治め、文化財が多く残されており、文教をととても大事にし、まとまりのある人情豊かな地域である。

これまでの公民館を中心にした地域づくりが高く評価され、文部大臣賞、農林水産大臣賞をはじめ数々の賞を受けてきた。

新城公民館では平成24年10月に市の指導の元「新城づくり10年計画」を立てた【写真1】。タイトルは「人情、豊かな自然と歴史に抱かれた住みよい郷 新城をめざして」とし、8つの行動計画を掲げ、実行に踏み込んだ。「住みよい郷」の根底にあるのが「生きがいづくり、仲間づくりを目指した特色ある公民館活動」である。特色ある公民館活動とおして地域振興計画を達成しようとしている。今回はその取り組みについて報告したい。



【写真1】新城づくり10年計画

1. 地域振興計画づくりと活動の実際

計画の策定は公民館総会で30人からなる計画策定委員会を立ち上げ、8回の委員会を経て纏まった。その間、先進地の研修や鹿児島大学の専門家との意見交換、市の関係課長等との話し合いも持った。目標設定は前期・中期・後期の目標設定時期は掲げたが、数値目標の設定は難しかった。8つの行動計画と5年経っての状況を示す【表1】。

2. 新城地区における6つの「特色ある公民館活動」

(1) 仲間づくりの拠点となる「グラウンドゴルフ場」の建設と活用

平成24年度、新城地区の地域振興計画を受けて、グラウンドゴルフ場作りを始めた。地区で管理するグラウンドゴルフ場の建設は、新城地区の高齢者が気軽に外にでかけ、交流できる身近な場所をつくりたいという願いから構想した。したがって、かねてより準備を進めていたゴルフ場建

【表1】 8つの行動計画の概要

| 番号 | 地域振興計画のテーマ | 成 果 | 「特色ある公民館活動」への関わり【詳細は次節参照】 |
|----|---------------------------|--|--|
| 1 | 地区で管理するグラウンドゴルフ場を持ちたい | 住民からの土地提供とボランティア活動により達成した。 | 館長自ら旗を振って行動し実現した。振興計画に掲げた成果。【2.(1)】 |
| 2 | 地域で空き家対策を考える | 仕組み作り等少しずつ進展している。 | |
| 3 | 「新城ふるさと先生グループ」等の活動を発展させたい | 様々なテーマに取り組み、活躍している。 | 「新城ふるさと先生グループ」の活躍は各種の活動へ展開している。【2.(4)】 |
| 4 | 農林業、漁業で生活ができる方法を考えていく | 現状把握を含め進んでいない。 | |
| 5 | 「おたけどんの郷」にもっと工夫を加えたい | 会長交代もあり、いくつか改善されている。 | 活性化は大きなテーマ。「ふるさと便」と連動する。【2.(2)】 |
| 6 | 南中跡地を地域と垂水市のために活用したい | 跡地が第3者に売却されたので、対応出来なかった。 | |
| 7 | 住環境を整備し、もっと住みよい郷にしたい | 振興会レベルの対応は出来ているが、工事を伴うような市のレベルのものは手つかずである。 | |
| 8 | 郷土のシンボル「おたけどん」を大事にしたい | 眺望を妨げていた杉の伐採、鉄道公園に常設舞台を作るなど取組は進んでいる。 | 「新城の風」の活躍期待。【2.(3)】 |

【表2】 新城づくり計画（地域振興計画）pp.16-17より抜粋

| 「新城はこうありたい」 | だれが | | いつ、何を？ | | 市役所関係課長等の回答・見解 |
|---|---|---|--|--|---|
| | ・地域・団体名・市・県・国 | | 前期(1~3年目)、中期(4~6年目)、後期(7~10年目) | | |
| <p>地区で管理するグラウンドゴルフ場を持ちたい</p>  <p>▲地区グラウンドゴルフ大会</p> | <p>新城地区公民館 新城ボランティア会 新たにつくる推進母体</p> | <p>・地区内の各団体の代表者で推進母体をつくり、打ち合わせをして、自分たちのルールを作る ・場所を探し、決める ・地権者との交渉を行う ・管理方法を決める ・市の手続きを要する ・グラウンドゴルフができるようにみんなで整備し、作り上げる</p> <p>ベンチ、トイレの設置を検討する</p> <p>日ごろの練習等に活用し健康づくり、生きがいづくりを行う 地区グラウンドゴルフ大会を開催する</p> <p>新城の新たないこい、語らいの場としても位置づけ、ずっと使い続ける 維持管理等は、労力奉仕を含め決めたルールを守って手入れを行う</p> <p>競技人口の増加を図る 大会規模の拡大を検討する</p> | | | <p>※1 夢や生きがいを持つことは、健康づくり活動につながることで、今後もその実現に向けて支援します。(保健福祉課)</p> |
| | 市 | <p>社会教育課 保健福祉課</p> | <p>地区で管理するグラウンドゴルフ場の実現のため、法令に基づき事務手続きを行う</p> <p>健康増進のため、地域における健康づくり活動や生きがいづくりの支援を行う ※1</p> | | |

設は、新城計画づくりの第一番の行動計画に掲げた【表2】。

実際の建設に向けては、場所探しが大変だったが、事業に賛同された2人から隣接土地4,000㎡の寄贈を受けた。20年近くの耕作放棄地の為、荒地状態であったが、重機も活用した住民のボランティア活動により、ほぼ1年で完成した。平成25年12月には地区をあげて、完成記念大会を開催し、夜は農林水産大臣賞受賞と完成記念のダブル祝賀会を盛大に行った。翌年は国の交付事業で、事務所などの交流拠点施設を完成させた。現在は月4回の月例会や地区外のメンバー、三々五々のプレーも催されている。地域民の交流、健康維持に大きく貢献している。

(2) 地域の活動の拠点として、農産物直売所「おたけどんの郷」を活性化

新城地区は地域の活性化を図る目的で、市農林課の支援のもと、平成17年に「むらづくり活性化戦略プラン」を作成した。第一の柱は地元農産物の直売所の建設である。直売所の名称は、新城地区の中心にある山（城址跡）の名前をとって「おたけどんの郷」とした【表3】。

目的は、高齢化が進んだ農家の就労意欲の向上と地域住民の交流の場の創出である。地元農産物を販売し、収入を

得ることで生産意欲が高まり、直売所を訪れる方とのふれあいが地域に活力を与え、交流の場となっている。生花などを求めて地域外からの来訪者も多い。高齢化の為、ふくれ菓子の製造販売はなくなったが、地元で捕れる水産物販売も手掛けている。昨年開設10周年を迎え、売り上げも年1,000万円を超えるまでになった。第2の柱は「ふるさと便」と名付けた地元特産品の発送である。春と秋の年2回、地区外の希望者に新米や新玉ねぎなどのふるさとの味と香りの詰め合わせを届け、好評を得ている。出荷者会員も70人を超え、地域活性化への大きな原動力となっている。しかし来年末には隣町に「南の拠点」と称する、道の駅が出来るかとされている。どのような影響を受けるか心配である。

(3) 若手による村おこしグループ「新城の風」の活躍

「新城の風」グループの活躍で、新城での最大の祭り「納涼祭」が大きく変わった。平成18年から、それまで公民館が担っていた祭りを地域内の若者たちが、自ら希望して引き継いだ。メンバーは20代～50代まで約50名である。若手の参加によって変わったことは、以下に挙げる通りである。

・会場について：これまでの狭い神社境内から、はるかに広い鉄道公園へ。

【表3】新城づくり計画（地域振興計画）pp.16-17より抜粋

| 「新城はこうありたい」 | だれが | | いつ、何を？ | | 市役所関係課長等の回答・見解 |
|---|----------------------------|--------------------|---|---------------------------------|--|
| | ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国 | | 前期(1～3年目)、中期(4～6年目)、後期(7～10年目) | | |
| <p>「おたけどんの郷」にもっと工夫を加えたい</p>  <p>▲買い物客らでにぎわうおたけどんの郷</p> | <p>新城地区公民館 おたけどんの郷</p> | <p>農林課 水産課</p> | <p>おたけどんの郷出荷者協議会の各期の活動計画と整合を取りながら展開していく</p> <p>【策定委員会で出された意見、アイデア】</p> <p>一本釣漁の復活、おたけどんで魚を売る</p> <p>販売商品の見直しを行い、冷蔵庫など備品の設置、設備改善のための補助金等の要望を行う</p> <p>費用対効果を見直し、売るしくみを再構築する</p> <p>設備改善のための補助金等の要望を行う</p> <p>組織の高齢化に対応する対策を考える</p> <p>野菜直売とイベントを合わせて実施し、他の地域の人を呼ぶ</p> <p>「新城おたけどん祭り」などのイベントの実施検討</p> | | <p>※11 具体的な要望もそれぞれの意向があると考えられますので、それぞれの状況に応じた補助事業等の情報を提供します。(農林課)</p> <p>※12 おたけどんの郷で活魚販売等の計画があることは聞いております。具体的なことは漁協と協議しながら進めていきたい。(水産課)</p> <p>※13 垂水市南部地域等でとれた農林水産物の販売の場を提供することで地域の活性化や雇用の創出が図られると考えています。そこで、平成24年度で垂水南中跡地に物産館、レストラン等、整備のための調査事業を実施します。 「おたけどんの郷」を今迄以上に拡充されるのであれば、垂水南中跡地に整備する物産館等を利用していただければ、これらの要望に応えられると思います。(商工観光課)</p> |
| | | | 市 | <p>農林課 水産課</p> <p>商工観光課</p> | |

- ・設備について：それまでは特設ステージでやっていたが、一昨年コンクリート製の常設ステージを、ボランティアで作り上げた。
- ・出店について：これまで依頼していた業者から、自分たちの手作り出店へ。
- ・その他：地域民の寄付で300個の祭り提灯を購入、神社から会場まで飾る。

「新城の風」の活動は、新城づくり計画の行動計画8「郷土のシンボル「おたけどん」を大事にしたい」の実現に向けてさらに期待するところである【表4】。

(4) 高齢者が子供たちを見守り・育てる「ふるさと先生グループ」の活躍

新城地区では、地区内にある唯一の小学校・保育園とのつながりがとても深く、各種の活動を展開している。活動の中心的な担い手が、地区の高齢者たちからなる「ふるさと先生」で、下記の活動などにおいて活躍している【表5】。

- ・子供たちと米、玉ねぎ、サツマイモ、落花生作り
- ・ふれあい活動（授業参観、昔遊び、読み聞かせ）
- ・ふれあい餅つき大会

- ・文化財少年団へ「鎌手踊り」の伝承指導
- ・郷土料理の実習と会食
- ・伝承行事保存会による「十五夜」「馬追い」行事の世話と指導。
- ・さわやか挨拶運動やスクールガードの活動。
- ・入学式・卒業式の参観や小学校と地区の合同運動会

(5) 地区民と地区外郷土出身者との心をつなぐ103年の歴史を広報誌「たより新城」の発行

大正3年の桜島の大噴火による被災からの復興をはかろうと、先人たちが「たより」書きを始めたのがきっかけである。「新城時報」「新城村報」「おたけどん誌」「たより新城」と誌名は変わってきた。現在の「たより新城」は8ページで年4回発行している。地区内全戸数約600部と地域外の郷土出身者へ約350部発送している。現在の「たより新城」になってから約40年が経っている。

今回の報告で取り上げた活動内容についても随時「たより新城」で発信している【写真2】【写真3】。

【表4】新城づくり計画（地域振興計画）pp. 22-23 より抜粋

| 「新城はこうありたい」 | だれが | | いつ、何を？ | | 市役所関係課長等の回答・見解 |
|---|--|------|--------------------------------|---|--|
| | ・地域 | ・団体名 | ・市 | ・県、国 | |
| 郷土のシンボル「おたけどん」を大事にしたい  ▲ おたけどんを望む | 新城地区公民館 新城ふるさと先生グループ 高齢者学級 新城ボランティア会 伝承行事保存会 新城の風 | | 前期(1~3年目)、中期(4~6年目)、後期(7~10年目) | 鉄道記念公園を含め、おたけどん一帯をみんなで大事にする 植栽等の検討を行う おたけどんからの眺望の良さを発揮できるような遊歩道整備などを考えていく おたけどんで小学生による伝統行事「節句の馬追い」を行う おたけどんに「こいのぼり」を掲げる 「新城の風」によるむらおこし(六月灯ほか祭)を盛り上げる 鉄道記念公園で花見、ゲートボールをして楽しむ 郷土愛をはぐくみ、子ども大人も「楽しかった」という思い出をつくる | ※21 新城配水池については、新城地区の水の安定供給を目的に建設した施設で、皆様に安心して飲んでいただく水を扱う所であり、常に衛生的な管理が求められる場所です。本来なら立ち入り禁止にすべきところであり、今後も公園化は難しいものと思っております。(水道課) ※22 伝統文化の継承が困難になってきている原因には少子高齢化、生活形態の変化や価値観の多様化等による後継者不足が挙げられます。まずは地区民一人一人が伝統文化の大切さを理解することが肝要です。 新城地区は新城島津家のお蔭元として古くから歴史や伝統文化を重んじる土地柄で組織活動も充実しています。行政の補助金制度や衣装・道具の買い替え時期には民間の助成事業もありますのでご相談ください。 また、伝統芸能を市無形民俗文化財に指定したり、発表の場を提供するなどの支援を行います。(社会教育課) |
| | | 市 | 水道課 社会教育課 | 新城配水池を適正に管理し、水の安定供給に努める ※21 地域伝統行事を未来へ継承できるよう、支援を行う ※22 | |

【表5】新城づくり計画（地域振興計画）pp. 12-13 より抜粋

| 「新城はこうありたい」 | だれが | | いつ、何を？ | | 市役所関係課長等の回答・見解 |
|---|---|----------------------------------|---|------------------|---|
| | ・地域 ・団体名 ・市 ・県 ・国 | | 前期(1~3年目)、中期(4~6年目)、後期(7~10年目) | | |
| <p>「新城ふるさと先生グループ」等の活動を発展させたい</p>  <p>▲鎌手踊り</p> | <p>新城地区公民館 新城ふるさと先生グループ 高齢者学級 老人会 新城の風 新城文化財少年団指導者 伝統行事保存会 新城ボランティア会 新城小学校PTA</p> | <p>社会教育課 教育総務課 学校教育課</p> | <p>伝統芸能「鎌手踊り」を小学生に伝承する 地域リーダーの育成に努める 学校行事に「ふるさと先生グループ」や地区の高齢者が参加・協力する 昔の道具を使って体験栽培を行う 年末に「ふれあい餅つき大会」を実施する 体験栽培の農産物を使って食事会をする 市職員が積極的に地域活動に参加するよう呼びかける 新城ボランティア会と連携し、緑化活動や清掃活動に協力する ガラッパ公園のホタルを残すために地域環境づくりに努める 六月灯を発展させていく（実行委員も若い人が30名もいる） 伝統行事（十五夜、馬追い）の盛り上げを図る</p> | | <p>※5 新城ふるさと先生については、新城公民館から新城小学校全児童及び職員と田植えを行うなどの活動報告を受けています。今後も、新城地区公民館での青少年育成の中心的団体として活動を続けていただくとともに、社会教育課も「ふるさと垂水を愛し、誇りにする子ども」を育成する観点から協力していきたいと思ひます。（社会教育課）</p> <p>※6 教育環境の整備・充実の観点から、学習の場である学校施設を長期にわたり有効に活用するため、老朽化した学校施設の適時適切な維持管理や補修を計画的に実施します。（教育総務課）</p> <p>※7 これまで同様、総合的な学習の時間や学校行事等において、米作りや芋植えなどをご協力・ご支援いただき、子どもたちに豊かな体験を積ませていただきたいと思います。（学校教育課）</p> <p>※8 地域担当職員の役割として、地域活動への参加や支援を掲げておりますので活用は可能です。しかしながら、あくまでも地域担当職員は地域をサポートするものですので、行政が半ば強制的に地域に入りこむことはできません。あくまでも地域が主体的、自主的に活動することが優先されます。 ※要請については、地区公民館からそれぞれの地区リーダーへ要請してください。（市民相談サービス課）</p> |
| | | | <p>市</p> | <p>市民相談サービス課</p> | |



平成 26年 3月 4日
編集と発行 新城地区公民館 第152号

人口の動き
1月末現在

| | | |
|-----|-------|----|
| 総人口 | 1156人 | -6 |
| 男 | 517人 | +1 |
| 女 | 639人 | -7 |
| 世帯数 | 609 | -1 |

〒891-2114 鹿児島県垂水市新城 3452
☎ 0994 (35) 3619
振替口座 02060 (6) 33856

新設記念地区グラウンドゴルフ大会を実施
25チーム、130名が参加して盛り上がりました。
夜は大臣賞受賞とグラウンドゴルフ場落成の
ダブル祝賀会
地区民116名が出席して祝杯をあげました。



テープカット



祝賀会

12月7日、新設記念地区グラウンド大会が盛大に開催されました。開会式では来賓招待のもと、テープカットや始打式が行われ、船長あいさつ、来賓（長濱市教育長）の祝辞等を受け、競技がスタートしました。
夜の祝賀会は垂水CC（ゴルフ場）で来賓に尾崎垂水市長初め市役所関係者多数を招待して、地区民116名が参加していただき、素晴らしいお祝いとなりました。

【写真2】「グラウンドゴルフ場」落成報告



平成 28年 9月 3日
編集と発行 新城地区公民館 第162号

人口の動き
7月末現在

| | | |
|-----|-------|----|
| 総人口 | 1069人 | -6 |
| 男 | 475人 | 0 |
| 女 | 594人 | -6 |
| 世帯数 | 604 | -3 |

〒891-2114 鹿児島県垂水市新城 3452
☎ 0994 (35) 3619
振替口座 02060 (6) 33856

新城六月灯…今年も大盛況となりました

7月23日（土）絶好のお祭り日和に恵まれ、神賀神社新城六月灯の祭りが実施されました。「新城の風」（村おこしグループ）が中心になって、公民館組織、多くのボランティアの方々の手で、新城ならではの手作り祭です。地区内はもちろん地区外からも多くの方々を訪れました。今年初めでの試みとして「花バス」の協力を得て、会場への送迎バスを運行しました。残念ながら利用者は少なかったようですが、六月灯の祭りは島津光久の時代（1650年頃）悪疫退散を祈願する祭りとして、島津藩一円に始まったとされています。



●「オーブ」は「豊田部長」8年振りの復活ですが、素晴らしい演奏！



●寄贈の太鼓を活用しています。



●「神賀神社」で「豊田部長」の「小学生」と「豊田部長」の方々が協力をしました。今回は「タツツ」の「夕立」に合わせ、翌朝まで健在



●「神社」で先立ち神社祭、川崎宮司の元で厳粛に、それに引き続き「なほら」いっ、和やかに頂きました。

【写真3】「新城の風」の活躍について

(6) ふるさとの歴史を学び、地区民に郷土愛を育む
「郷土史研究会」

私たちの地区は史跡が多く、先人たちが現在までつないできた郷土史研究会は歴史も古く、歴史学習や地域内に散在する文化財に標識の設置や整備・清掃活動などを通して、地域のまとまりや郷土愛を深めてきた。

3. 評価・成果

これまでの新城地区の活動を振り返ると二つのことが言えると思う。

ひとつは、「公民館は仕掛け人」であるということだ。公民館は地域を元気づける仕掛け人の役割も担っている。新城公民館は来訪者がとても多く、様々な声や情報が届けられる。地域の声を大切にしながら、活動の改善や新規事業の企画を行い、住民の活力の向上につなげている。

もう一つは、「多くの人が地域の主役」であるということだ。新城地区公民館は多岐に亘る組織をもっており、それぞれが自立し、地域を支えている。そのことが全体としてのまとまりや活性化にもつながっている。

最後に －今後の課題

公民館活動を支える地域住民の高齢化がすすんでおり、今後の活動の活性化や継続のためにはどうしても後継者育成が必要である。若人の集い(新城の風)に期待しているが、さらにUターン、Iターン者を増やす方策の検討や情報発信を継続しながら、若い世代が住みたくなるような魅力ある地域づくりに努めていきたい。10年計画の見直しが急務である。